

と問い、ブロック「ごはんを」を提示し、「たべる」を重ねた。

次に、

発問 どんなご飯かな？

と問い、ブロック「おいしい」を「ごはんを」を重ねた。

以下同様にして

かわいいぼくはおいしいごはんをたくさんたべると重ね、

説明 この、「ごはんを」のように、「何を」「どんな」「どのように」等を表す「文をくわしくする言葉」を「修飾語」と言いますね。

と説明しながら、ブロック「ごはんを」を裏返し、「修飾語」という部分を見せ、用語を確認した。更に、黄色チョークで板書した。

板書 修飾語－文をくわしくする言葉

発問 では、「ごはんを」は、どの言葉をくわしくしていますか。選んで重ねてみましょう。

と問いながらブロックを再度ばらばらにし、教卓の上に並べた。

児童は、「ごはんを」はどの言葉を修飾しているのかを考え「たべる」を重ねることができた。【資料7】

同様に、「たくさん」や「かわいい」がどの言葉を修飾しているのかを考えさせた。

### 【資料6】

文構成ブロック

発泡スチロールの箱に文字を書き、語や文節単位で、重ねたり、貼り付けたり、移動させたりするための自作教具。

面ファスナー♀  
(「ぼく」は、「は」とは付くが、「わ」とは付かない。)

面ファスナー♂

語や文節を固まりとして意識させたり、助詞「は」、「を」の正しい使い方に気付かせることができる。

また、主語と述語、修飾語と被修飾語を直接重ねることにより、それらの関係を視覚に訴えながら理解させることができる。

文字は、主語の「ぼくは」は赤、述語の「たべる」は青、修飾語は黄色にした。また、箱の裏面にはそれぞれ、「主語」、「述語」、「修飾語」と書き込んだ。

### 【資料7】

